



海を越えて買い物ツアー

地域の特徴

- 人口：679人（65歳以上：290人）
- 世帯数：355世帯
- 高齢化率：42.7%
- 地域特性：島

姪浜港から市営渡船で約10分の場所に位置する能古島は、菜の花やコスモスの名所として知られる周囲12kmの島です。行楽シーズンには、島外からの観光客が多数訪れます。島内は5町内で構成されており、各町内でふれあいネットワークやふれあいサロン、会食会をはじめ、各種団体が協力して、夏祭りや体育祭、成人式等、三世代が交流する地域活動が盛んに行われており、地縁の結びつきが強い地域です。また、高齢化率は西区で2番目に高く、独居世帯が増加しています。毎年開かれる高齢者支援会議では島内の福祉施設も参加し、健康や災害、生活支援などについて議論を重ねています。



能古清和園の送迎車で渡船場へ



フェリーで海を渡ります



姪浜港へ到着



ボランティアが乗り降りを手伝います

買い物先の環境

島内で日用品・食料品を扱っていた商店が閉店したため、島民の日常の買い物は、島外への買い物や生協の利用などが主な方法となっています。しかし、フェリーで島外まで買い物に行けない高齢者も多く、買い物に困っているという声が多く聞かれています。

買い物支援の概要

- 実施主体 能古校区自治協議会
- 協力事業者 サングリン、特別養護老人ホーム能古清和園
- 実施曜日・時間 毎週水曜・金曜 13:00～15:00ごろ
- 買い物先 サングリン
- 車両、運転手提供 サングリン、特別養護老人ホーム能古清和園
- 感染症対策 消毒液設置、マスク着用、検温、対人距離の確保

取組みの経緯

1 サングリンの協力による体験ツアーの実施

●サングリンへの協力依頼

能古校区では以前から、コンビニエンスストアが島内の福祉施設や農産物出荷倉庫で移動販売を行っており販売していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となってしまいました。そこで、地域として、かねてから買い物客への無料送迎を行っている西区下山門団地のスーパーマーケット「サングリン」に、能古島からのフェリーが着く姪浜港と、サングリン間の送迎の協力をお願いしたところ、快諾を得られ、取組みの検討が始まっていきました。

●サングリン体験ツアー

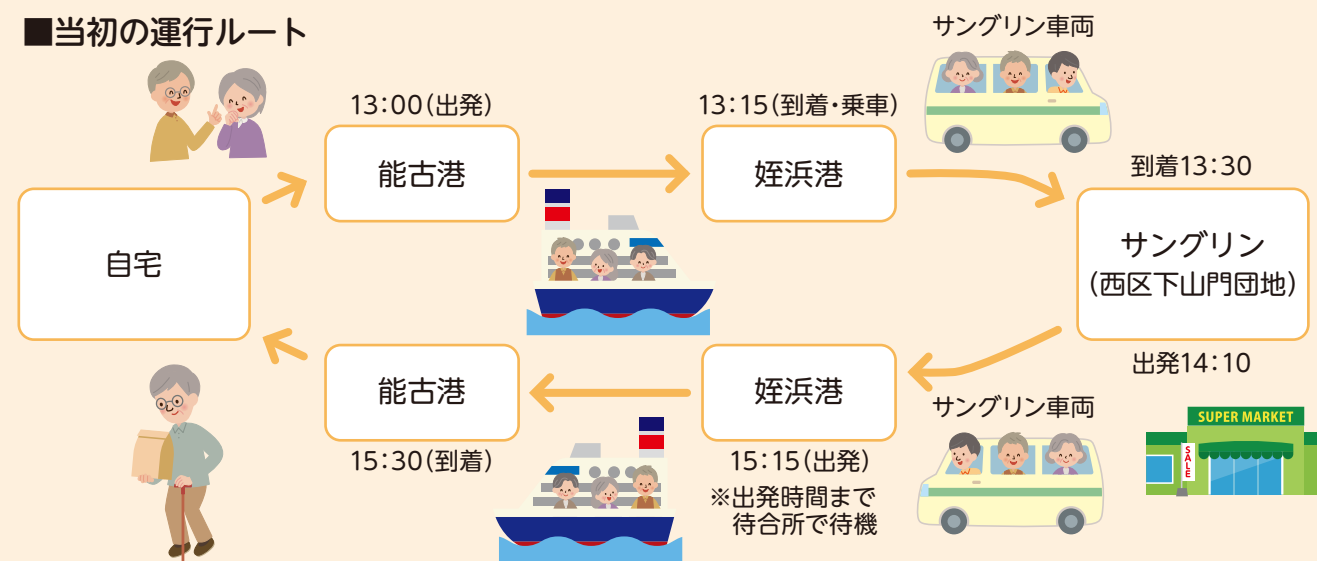
地域と事業者で協議を行い、まず、下記運行ルートで、地域団体役員や民生委員、ふれあいネットワーク班長などが実際に買い物に行ってみる「サングリン体験ツアー」を実施することにしました。実際に送迎車に乗って買い物をすることで、車内や買い物先の雰囲気、商品の種類などがよくわかり、島民へのお知らせをしやすくなりました。また、体験ツアーにより、右記の2つの課題が浮かび上がりました。

<体験ツアーで浮かんだ課題>

- 自宅と能古港間の移動手段
- 利用者の取りまとめ方法



■当初の運行ルート



<工夫点>

- 事業者がこれまで行っていた無料送迎の取組みの延長として協力依頼を行うことで、無理なく協力を得られた。
- 地域団体役員等による体験ツアーを行うことで、具体的な取組みのイメージがつかめ、島民へのお知らせや課題の抽出に役立った。



出発時の記念写真

2 高齢者支援会議での検討・課題の解決

体験ツアーを踏まえ、地域団体や民生委員、島内の福祉施設などが参加する高齢者支援会議において、課題である「自宅と能古港間の移動手段」と「利用者の取りまとめ方法」について検討し、右記の通り改善しました。改善後の新運行ルートは下記の通りです。

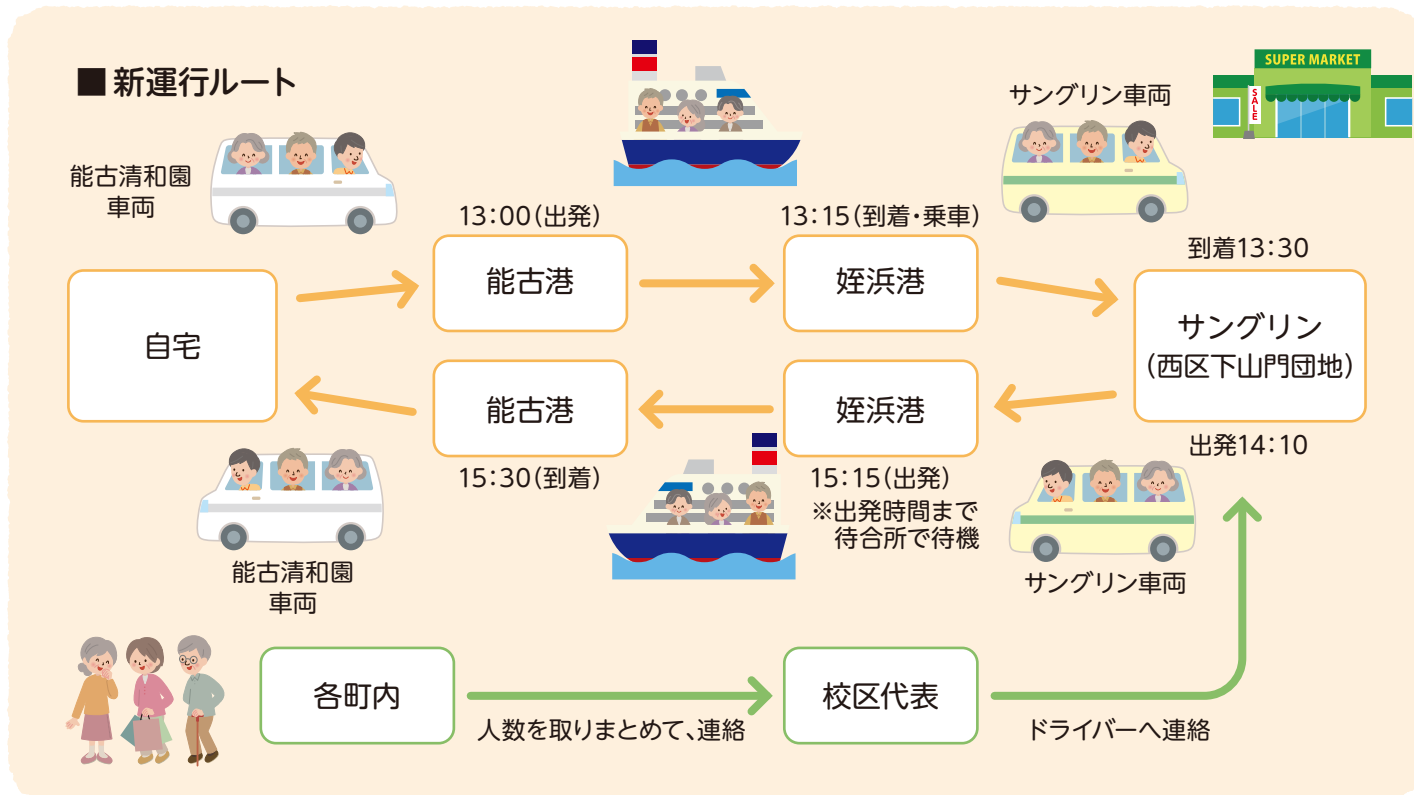
<<改善点>>

●自宅と能古港間の移動手段

島内の特別養護老人ホーム能古清和園に車両・運転手の協力を依頼。各町内で車両の停車場所を決め、利用者に集合してもらう。

●利用者の取りまとめ方法

各町内に曜日を振り分けて取りまとめを行い、校区代表へ連絡。校区代表からサングリンの運転手へ乗車人数を連絡する。



高齢者支援会議の様子



能古清和園職員が手伝います

<工夫点>

- 地域の様々な主体が参加する高齢者支援会議を活用したことで、関係者全員で買い物支援について協議でき、島内の送迎に協力してくれる福祉施設との連携にもつながるなど、課題の解決につながった。

3 取組みの開始・利用者の声

高齢者支援会議で協議した結果を踏まえ、町内ごとに買い物に困っている高齢者に利用してもらうことになりました。その際は、町内会長や民生委員が付き添って、簡単な買い物のお手伝いをしながら、利用者を見守ることにしました。利用者からは、「買い物に久しぶりに行けてうれしい」「町内の人はいたい知り合いだから気兼ねなく行ける」「自分の目で選ぶと楽しいし、野菜が安くて助かった」などの好評の声が多く聞かれ、買い物支援が楽しみとなっているようでした。今後も改善を重ねながら、地域

と事業者でより持続可能な買い物支援となるよう取り組んでいきます。

<工夫点>

- 町内ごとに実施日を割り振ることで、普段から顔なじみの方向士で参加でき、交流が深まった。
- 買い物に町内会長や民生委員が付き添い、簡単な買い物のお手伝いをしながら、利用者の見守りを行った。



買い物はささえあって



両手いっぱいを買いました

能古校区に学ぶ!買い物先への送迎の取組みのポイント

- 1 事業者がこれまで行っている取組みに注目し、無理のない範囲で協力依頼を行きましょう。
- 2 高齢者支援会議など、地域全体で話し合える会議をうまく活用し、さまざまな意見を取り入れながら地域に合った仕組みを考えていきましょう。
- 3 地域団体役員等が先に取組みを体験すると、本格実施に向けた課題の抽出や住民へのお知らせの際に役立ちます。

関係者の声

みなさまに喜んでもらえることが一番です。

島内で唯一の食品店がなくなり、多くの高齢者が買い物困難となりました。新規商店の設立や移動販売も試みましたが、いずれも売上が見込めず撤退しています。現在は買い物支援を推進しているサングリン・能古清和園様と提携し、送迎での買い物支援を実施しています。友人と楽しみながら買い物で過ごす時間はとても大切なものです。月に数度の買い物でも喜んでくれて、私たちもうれしくなります。



能古校区自治協議会 会長
福田 唯夫さん